

種市小学校

学級活動(2)ハンドブック

まいにち げんき!
一ねん 二くみ なまえ

1. めあて

げんきに せいかつするために、
てあらい についてかんがえよう

2. あらったのに なぜ てには よごれが いっぱいなんだろう？

3. ピカピカてあらいの しかたを しろう。

4. ピカピカてあらい さくせんを かんがえよう。

しぼく は、
ていねいにおらつてすみずみまであろう。
いいね!

5. ふいかえり ◎ ○ △

げんきにせいかつするために、てあらいがなぜたいせつかかん がえることができた。	<input checked="" type="radio"/>
ピカピカてあらいのしかたがわかった。	<input type="radio"/>
ピカピカてあらいさくせんをかんがえることができた。	<input checked="" type="radio"/>

インフルエンザにならないうに
したいです。
まいにち げんき!! かんぱう

学習シート見本

補足資料②

種市小学校研修部

1 学級活動(2)で育てたい力

(1) 学習指導要領解説編から

学級活動で育てたい「健全な生活態度」とは、日常生活を営むために必要な行動の仕方を身に付け、集団の中で自己を正しく生かそうとする態度であり、「(2) 日常の生活や学習への適応及び健康安全」などの心身の健康を増進することができる態度である。

(2) 「楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動」から

児童が自ら努力目標を自己決定し、その実現に取り組めるよう生徒指導の機能を生かす展開を工夫することを通して、自己指導能力を育てます。

(3) つまり、まとめると・・・

よりよい生活をするために与えられた題材について、自分で目標を決めて自分で実践できる態度を育てる。一言で言うと「自己実現できるようにする」

2 題材

学級会の議題は子どもたちが選定しますが、学級活動(2)の題材は、教師が設定します。次のことに注意して、年間指導計画にしっかりと位置付けましょう。

- ①学級・学校の実態，児童の発達段階を考慮して設定しましょう。
- ②「希望や目標をもって生きる」「基本的な生活習慣」「望ましい人間関係」「当番活動等の役割と働くことの意義」「学校図書館」「健康・安全」「食育」の授業を必ず位置付けましょう。
- ③実践できるものを設定しましょう。
- ④他教科(体育・家庭科等)との関連や整合性をしっかり図りましょう。

3 問題意識

題材について、子どもたちの実態を具体的に把握するために、事前にアンケートを取りましょう。そのアンケート結果をグラフや表に表して、授業の「つかむ」段階で活用して、問題意識を高めましょう。

例えば・・・

- ①「メディアとの付き合い方を考えよう」という題材なら、「あなたは一日にどのくらいの時間、メディアにふれていますか？」というアンケートを取り、授業に活用してみよう。

②「手洗いの大切さについて考えよう」という題材なら、「あなたはいつも手を洗っていますか？」というアンケートを取り、授業に活用してみましょ

う。アンケートを活用して子どもの実態を「わかっていてもできない」グループや「知らなかったからできない」グループ等のような、ある程度グループ分けをしてから授業を進めましょ

4 授業展開

授業は「つかむ→さぐる→見付ける→決める」の4段階で展開ましょ

- ①つかむ→事前にとったアンケート結果等の資料を提示して、設定した題材を子どもたち自身にとって課題となるようにましょ
- ②さぐる→問題の原因は何なのか、クラスみんなで考えましょ
- ③見付ける→原因を基にどうすれば個々の問題が解決するかを考えましょ
- ④決める→みんなで見つけた解決方法の例も参考に、自分に合った方法を意思決定ま

5 行動選択と意思決定

授業展開の中で、子どもたちに必ずさせなければならないことの一つに「意思決定」があります。

- ①まず課題意識を子どもにもたせましょ。課題意識は授業が始まる前からたせるのが大切です。(つまり、単元計画が重要です)
- ②見付ける段階での話し合いを十分に行いましょ。全員で多様な解決方法を出すことで、意思決定につながられます。
- ③できる限り日常に近づけた意思決定にましょ。家庭環境も考慮した意思決定が実践につながります。

意思決定をさせて実践へつなげましょ。



6 望ましい実践化と習慣化のために

情報が氾濫している現代、子どもたちは様々なことを知っています。「早く寝ないと成長ホルモンが分泌されない」「メディアによって脳が退化する」など・・・知識はもっている子どもたち。だからこそ授業後の実践が大切です。子どもたちが実践できるように授業を考えたり、授業後もアクションを起こしたりしていきましょう。

家庭と連携しながら、「心地よさ」+「達成感」を味わわせることがとても大切です。

11月かん やってみたい！

しるしのもくじょう

「ぽく」は、
ていねいであらってすみずみまであらう

できたらっに いろいろめろろ。

11/18	11/21	11/22	11/24	11/25	11/28	11/29
★	★	★	★	★	★	★
せんせい						

やってみて どうだったかな？ 振り返りしよう。

ぴかぴかであらいをしたら、が
おきりしてきもちがよくなりました。

せんせいから

ピカピカの手は、きもちいいですね!!
じょうずにできました。

このよ
あると

これを行うこ
子どもたちに
習慣化につな

7 専門性を要する教職員を活用しましょう



そのためには、専門家をどんどん活用しましょう。保健指導なら養護教諭，食育指導なら栄養教諭，読書指導なら司書教諭。同じ話でも担任ではなく専門家が話をすると子どもたちはしっかり聞いてくれます。活用する場面はねらいによって「つかむ」「さぐる」「見付ける」どの場面でも活用できます。

これを行うことで・・・
子どもたちの理解がより深まっていきます。
の意欲が高まります。